

Ⅲ 計画の方向性

基本理念

2040年

都市生活と農業が共存する街を残すのは私たち

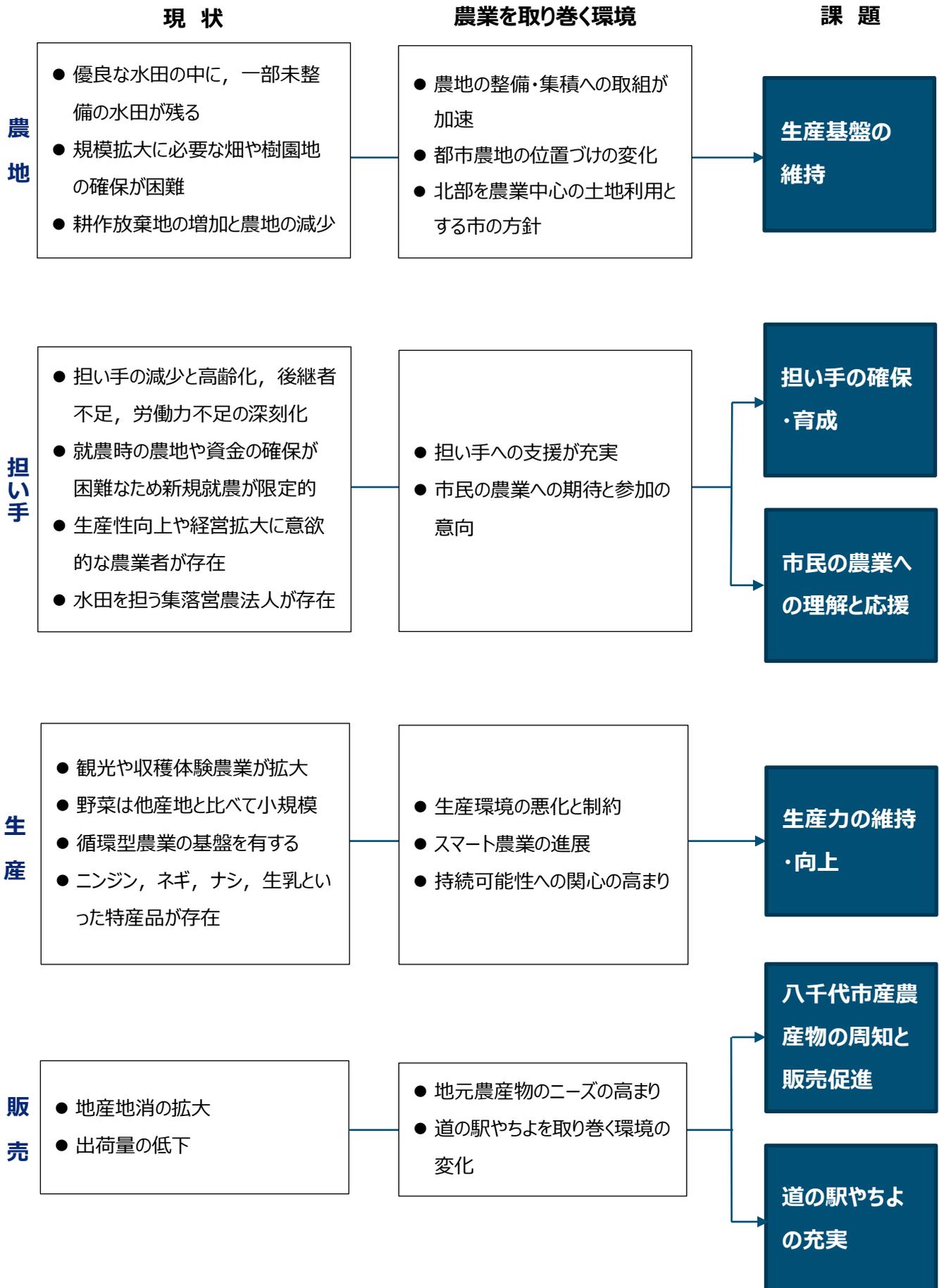
かつて本市は、街のほぼ全域が農村でしたが、交通網の発達により、都市化と人口の増加が進み、街の農業と風景は大きく変わりました。

人口の増加を背景に、主に直売所を販路とした「地産地消」が拡大しました。しかしその一方、都市化が進み農地と住宅等の距離が縮まったことにより、土ぼこりや悪臭等の苦情が増加し、今までのやり方で農作業を行うことが難しい状況も生じています。

世界の人口は増え続け、食料の需要は拡大すると考えられていますが、日本は人口が増える時代は過ぎ、本市の人口も2025年をピークに減少に転じると推計されています。

こうした転換期の今、20年後を見据え、意欲的な担い手がしっかりと生産を続け、20年後も新鮮な食材が身近に手に入る豊かな暮らしを守り、農業が育む実り豊かな風景を守り抜くことを、農業者を含めた全市民が共有する理念とし、農業を振興します。

現状と課題の整理



施策の体系

〔方針〕	〔施策〕	〔取組〕
<p>農業所得の向上</p> <p>【対応する課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 生産力の維持・向上 ◇ 八千代市産農産物の周知と販売促進 ◇ 道の駅やちよの充実 	<p>1 道の駅やちよのブラッシュアップ</p> <p>2 地産地消の拡大</p> <p>3 特産品の生産・販売の強化</p> <p>4 付加価値の高い農業経営の支援</p> <p>5 農業災害や被害への対応</p>	<p>(1) 道の駅やちよのブラッシュアップ★</p> <p>(2) 目的地＝「農業的ビジネスチャンスの拠点」とする農業振興★</p> <p>(1) 生産・供給力の強化★</p> <p>(2) 販売の強化</p> <p>(3) 都市農地の有効活用</p> <p>(4) 資源循環の検討</p> <p>(1) 選別・荷造りの共同化の検討</p> <p>(2) 特産品のPR</p> <p>(1) 新たな農業経営の展開の支援</p> <p>(2) 飼料確保の共同化の検討</p> <p>(1) 防災・減災への対応</p> <p>(2) 病害虫・鳥獣等の被害への対応</p> <p>(3) 生産者が共同で行う試験実施への支援</p>
<p>農業を担う多様な人材の確保・育成</p> <p>【対応する課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 担い手の確保・育成 ◇ 市民の農業への理解と応援 	<p>1 新規就農者の確保・育成</p> <p>2 既存の農業者の育成</p> <p>3 農業の応援者の確保・育成</p>	<p>(1) 新規就農者の経営類型の見直し</p> <p>(2) 就農時の経営資源の確保の支援★</p> <p>(3) 新規就農者の定着の支援★</p> <p>(1) 中心となる経営体の明確化★</p> <p>(2) 中心となる経営体の経営力の向上★</p> <p>(3) 水田における担い手確保の検討</p> <p>(1) 多面的機能の周知方法の検討</p> <p>(2) 食育の推進体制の強化</p> <p>(3) 食育の機会の充実</p> <p>(4) 農作業の技術を持つ市民の育成</p>
<p>農地の整備と担い手への集積</p> <p>【対応する課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 生産基盤の維持 	<p>1 農地の整備と保全</p> <p>2 担い手の農地等の確保</p>	<p>(1) 水田の整備</p> <p>(2) 畑の区画の最適化</p> <p>(3) 農地の保全★</p> <p>(4) 耕作放棄地の増加の抑制★</p> <p>(1) 重点地域の検討</p> <p>(2) 担い手への農地の集積★</p> <p>(3) 農業経営の継承の支援</p>

※★は、重点的に取り組むものです。

